



写真提供:中城湾港出張所

リュウキュウアマモ *Cymodocea serrulata*

オモダカ目アマモ科

葉脈数 **13～17** 本

(ベニアマモ、**9～15** 本)

葉の幅 **4～9mm**

葉の長さ **6～15cm**

低潮線から漸深帯の砂底に生育する海草

役割

植物自体が餌となる(ウミガメやジュゴンなど)

生息場所の提供(稚仔魚の成長の場、小型甲殻類、成体や幼生などのすみか)

酸素の供給源

砂を安定させる



写真提供:中城湾港出張所

リュウキュウスガモ *Thalassia hemprichii*

オモダカ目アマモ科

葉脈数 **10～17** 本

葉の幅 **4～11mm**

葉の長さ **10～40cm**

低潮線から漸深帯の砂底に生育する海草

地下茎を発達させて砂中をはって生息する

役割

植物自体が餌となる(ウミガメやジュゴンなど)

生息場所の提供(稚仔魚の成長の場、小型甲殻類、成体や幼生などのすみか)

酸素の供給源

砂を安定させる



写真提供:中城湾港出張所

リュウキュウサルボウガイ *Anandara antigutata*

二枚貝類フネガイ科

アマモ場や砂礫地の砂泥地に生息している

高級寿司ネタ赤貝の仲間

個人消費はされているが

現在沖縄では商業的な利用はない

水中の有機物を吸い込んで濾（こ）しとって成長する



拡大



写真提供:中城湾港出張所

クビレミドロ *Pseudodichotomosiphon constrictus*

フシナシミドロ目フシナシミドロ科

**1～2cm** の植物体

**12月～4月頃**まで見られる

**1年性**である

生活史はよくわかっていない

砂泥中に糸状の根を長く差し込んで群生する

低潮線付近の砂泥地に生息する

基準産地が那覇で現在、泡瀬と屋慶名（海中道路のあたり）、  
恩納村の太田(現在の生息は不明)にしか生息が確認されていません

変種が海南島から報告されている **1属1種**

クビレミドロ(クローズアップ)

群生しているので**1個**見つけたら周りにもいます  
仮根部を砂泥中にはやして植物体を支持している  
(波などでさらわれないようにしている)

触らないように見るだけにして下さい

周りの個体も踏みつけないように気をつけること



写真提供:中城湾港出張所

ミナミコメツキガニ *Mictyris brevidactylus*

エビ目(十脚類)ミナミコメツキガニ科

ミナミコメツキガニ科は世界で**3種**、日本ではミナミコメツキガニのみ生息

♂のふんどしが大きく、外見から♂♀の区別が難しい

コメツキガニとは科の異なる別物である

巣穴を作らず、回転しながら砂に潜る